

EU の乳製品は高水準の価格、減少基調の民間在庫量で推移

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2021 年 12 月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会 12 月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EU の 2021 年 1~9 月の生乳生産量は前年の水準をわずかに上回ったこと(閏年の調整により+0.3%の微増)、世界の主要輸出国・地域での生乳生産は 2021 年 9 月には減速したものの 2021 年 1~9 月でみると 0.8%増加となっていること、EU では庭先乳価に加えて特に乳製品価格が高い水準にあることや、乳製品の民間在庫量は減少基調が続いていることなどを伝えている。同報告書は、EU では酪農家の戸数は減少している一方で若手酪農家の比率が上昇していることも報告している。今後、新型コロナの新規変異株による新たな規制や、資材コスト増、物流などサプライチェーンの課題などに警戒が必要としている。日本では年末年始にかけて懸念された処理不可能乳の発生は、酪農家による生乳の出荷抑制や乳業メーカーによる最大限の乳製品向け処理などの酪農乳業が一丸となった取り組み、生乳需給状況がメディアで報じられたことを受けて広がった消費者からの応援や小売り・流通業者の消費拡大の輪、さらに岸田首相による牛乳消費の呼び掛けや農水省をはじめ行政の取り組みによって回避することができたが、欧州では違った状況があったようだ。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第 40 回会合は、以下のミルクサプライチェーンの専門家の参加を得て、ビデオ会議で 2021 年 12 月 6 日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ピア・カンペシーナの欧州組織)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EU の 2021 年 1~9 月の生乳生産量は前年比 0.3%増

2021 年 1 月~9 月の EU の牛の生乳集乳

量は、前年の水準をわずかに上回った(閏日の調整により+0.3%)。10 か国の EU 加盟国は生乳生産量の減少を報告し、その中にはドイツ(-1.2%)、フランス(-0.9%)、オランダ(-1.7%)が含まれていた。

2021 年 1 月~9 月の EU のチーズ生産量は 2.3%増加した。また、クリーム(+1.8%)と濃縮乳(+3.8%)の生産量も増加した。その他の乳製品の生産量は、全粉乳(-10.1%)、脱脂粉乳(-3.6%)、バター(-1.3%)、はっ酵乳(-2%)、飲用乳(-0.5%)といずれも減少した。

EU では庭先乳価や乳製品価格が高水準で推移し、民間在庫量は減少基調に

EU の平均庭先(牧場出荷)乳価は、2021 年に入ってから毎月上昇しており、近年の水準をかなり上回っている(10 月は 1 キロ当たり 38.5 セントで前月比 3.1%増、2020 年 10 月の

価格を9.7%上回った)。EU加盟国の2021年11月の推定値では、1キロ当たり38.86セント(10月比+1%)へさらに上昇すると指摘している。すべての加盟国の生乳価格が前年比で上昇し、リトアニア(+22.7%)、ベルギー(+22%)、マルタ(+19.6%)では最も高い価格上昇が報告された。

EUにおける酪農生産のための飼料コスト(穀類、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、2020年と比較して25%上昇した。

EUの平均乳製品価格は過去4週間において上向き、いずれも1年前よりはるかに高い水準にある。EUの脱脂粉乳価格は2014年4月以来の高水準に達し、全粉乳価格は歴史上の記録的な水準となっている。EUのホエイパウダー価格は2007年7月以来の高水準となっている。2021年初からバター価格は56.5%上昇し100キロ当たり525ユーロ、脱脂粉乳価格は43%上昇し100キロ当たり313ユーロとなっている。脱脂粉乳(+60%)、ホエイパウダー(+45%)を含め、すべての乳製品の価格は5年間の平均値を上回っている。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づくEU在庫レベルの評価は、順調な国内消費、堅調な輸出、EU内外での生産量の減少により、民間の脱脂粉乳在庫量(約6万トン)は、一年のこの時期としては非常に少ないことを示している。春に蓄えられたバター在庫は、秋にはフレッシュバター用のクリームが不足したため重宝された。(最近も原料の)価格が高いため、バター在庫量(現在15万トンを下回る)のさらなる減少が予想されている。ここ数ヶ月の旺盛な需要により、チーズ在庫量は6月以降、約40万トンから2021年9月には36.5万トンまで減少した。

9月は主要乳製品輸出国の生乳生産は減速するも、2021年1~9月では0.8%増加

米国、オセアニア、英国でも生乳生産が減速している。全体として、2021年9月に主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド)の生乳集乳量は0.8%減少したが、2021年1月~9月としては依然として拡大している(+0.8%)。

2021年1月~9月期の世界貿易は、輸送スペースの制約(コンテナや船舶の空きが不足、運賃が高い、スケジュールが不安定、輸出が遅れるなど)により、世界のサプライチェーンに一部混乱が生じたものの、堅調な増加で推移した。2021年1月~9月の世界の輸出量(生乳換算)は、EU、ニュージーランド、米国で76%のシェアを占めた。EUの乳製品輸出は、ブレグジット後の貿易協定の影響を受けているが、ボーイング社とエアバス社に対する補助金を巡る貿易紛争による追加関税の停止を受けて米国との貿易は活動的に動いている。チーズとホエイパウダーは最高の実績を示している。中国の乳製品の輸入量は突出しているが、今のところ急激な減少の兆しはない。EUからの主な輸出先は、米国、中国、英国、インドネシアだった。

2021年1月~10月の一部のEU加盟国では、レストランでの乳製品の販売がやや増加しているのと並行して、乳製品の家庭内消費と小売販売はやや減少している。フランスでは、2021年1月~10月に有機乳製品の売上が減少した。

EUの酪農家の経営構造の変化について

欧州委員会は、酪農家の経営構造の変化についても説明した。EU加盟国ごとに大きな違いがあるものの、2005年~2016年の間に観察された一般的な傾向は、酪農場の規模の

拡大と並行して、酪農場の戸数が減少している(2005年～2016年間の平均で、酪農場一戸当たり17頭の乳牛が増加、一方、酪農場の戸数は38%減少)。

また、2009年～2019年にかけてEUの乳牛総頭数は減少したが、それは生産効率(1頭当たりの生乳泌乳量)の上昇によって相殺され、結果としてEU全体の生乳生産量は増加傾向にあった。酪農場は絶対数が減少したとしても(事業者数の減少と一致して)、若い酪農家の割合が増加している。酪農家の労働力は依然として家族が中心であるが、契約(雇用)労働者の割合が増えている。

以上のように、EUの乳製品市場は、生乳生産量の僅かな伸びと堅調な国内および世界の需要により、どちらかといえば堅調に推移している。ただし、中国の需要への依存度が高すぎること、新たな新型コロナ変異株に関連した新たな規制、投入コストの上昇、その他のサプライチェーンにおける課題などには警戒が必要である。

参考資料:

- 1) https://ec.europa.eu/info/sites/default/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-report-2021-12-06_en.pdf MMO economic board meeting report – 06 December 2021. European Commission. (資料閲覧:2021年12月9日)

(Jミルク 国際グループ 新光一郎)